

Fujitsu Asia、ハイパフォーマンスなロードバランシングサービスの提供にA10 Thunder ADCを採用

顧客名:

Fujitsu Asia Pte Ltd

業種:

情報サービス

A10のソリューション:

A10 Thunder 1030S ADC

課題:

- ・ アジア進出を図る顧客ネットワークを拡張するハイパフォーマンスなロードバランシングサービスの提供
- ・ ネットワークインフラの統合によってアプリケーションの無秩序な増設をなくし管理を簡素化
- ・ 必要な機能と容易な管理を両立しつつTCOを削減

導入効果:

- ・ クラウドベースのロードバランシングサービスをThunder ADCにより標準化
- ・ Thunder ADCのマルチテナント機能により1台の筐体で数百の仮想ロードバランサーのインスタンスを稼働可能
- ・ 業界標準のコマンドラインインターフェイス(CLI)によりネットワーク技術者は大規模なトレーニングの必要なくThunder ADCの操作を習得し運用可能
- ・ 機能、容易な管理、コストに対する目標をすべて達成

“1台の筐体で提供できる仮想的なADCの数が多く、仮想ADC 1台当たりのコストパフォーマンスは同じ価格帯の他社製品と比べて10倍以上の差が出るケースもありました。”

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
プラットフォームインテグレーション本部
第三システム部 課長
柴田 隆仁氏



ASEAN地域における富士通グループのビジネス開発、技術革新、顧客サポートをリードするため、Fujitsu Asia Pte Ltd. (以下、FAPL)は1997年にシンガポールに設立されました。同社は2014年にはアジアのヘッドクォーターとなり、「FANICS (Fujitsu Asia enhanced Information and Communication Services)」によるクラウド型ネットワークサービスの他、情報処理やパッケージソフト、システムソリューション、通信サービスを始めた様々な製品やサービスを提供しています。FANICSを構成するロードバランシングサービスの基盤として採用されているのがA10ネットワークスの次世代アプリケーションデリバリーコントローラー(ADC)「Thunder® 1030S ADC」です。

課題:ロードバランシングサービスの標準化

現地企業および海外進出を図る日系企業をサポートするべく、世界各国にデータセンターを展開している富士通グループ。そのなかで、成長著しいASEAN地域のヘッドクォーターとしてシンガポールに1997年に設置されたのがFAPLです。ITインフラやクラウドネットワークへのニーズに応えるため、同社では様々な事業を展開しています。株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ(以下、富士通SSL)プラットフォームインテグレーション本部 第三システム部 課長 柴田 隆仁氏が担当している流通業の日系企業も海外のデータセンターを活用してクラウドに移行していくことを計画した企業の1つです。

「システムのクラウド化を検討する中で、海外のデータセンター利用を検討することに。そのお客様に最適なネットワーク環境はどうあるべきか議論する過程で、サーバーの負荷分散に必要なADCの必要性が話題になりました。しかし、FAPLが展開するデータセンターにはロードバランシングのサービスがその当時は存在していなかったのです」。

FAPLでは顧客要望に応え様々なベンダーのADCを導入してきた経緯がありますが、管理を効率化するためロードバランシングサービスの標準化は以前から望んでいたと当時FAPLでFANICSの販売促進に携わっていた富士通株式会社 ネットワークサービス事業本部 FENICS事業部 ネットワークサービス部 勝田 圭介氏は振り返ります。



株式会社 富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
プラットフォームインテグレーション本部
第三システム部
課長
柴田 隆仁氏

富士通株式会社
ネットワークサービス事業本部
FENICS事業部
ネットワークサービス部
勝田 圭介氏

Fujitsu Asia Pte Ltd.
地域ITサービス開発部門
ネットワークサービス開発部
リーダー
Manoj Buddhika Adikari氏

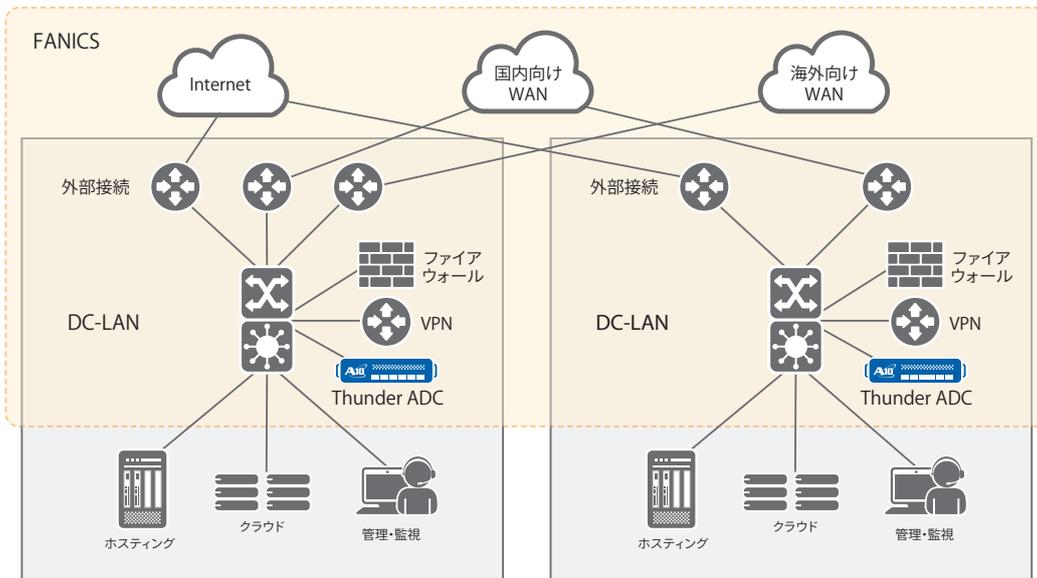


図1: アジアの顧客に標準化されたロードバランシングサービスを提供するためのアプリケーションデリバリーコントローラーとしてThunder ADCを導入

「実は以前からロードバランシングサービスを提供してほしいというニーズがあったのは事実です。お客さまにワンストップで提供できる環境を整備するという、今後のデータセンターサービスを考える上でも、これを機会に標準化されたロードバランシングサービスを提供するべきだと考えたのです」(勝田氏)。

このことが富士通SSLと共にADCを検討するきっかけになりました。

検証: 仮想ADC当たりのコストパフォーマンスは10倍以上! 圧倒的な性能が決め手

柴田氏の顧客は以前からADCをネットワークに設置しており、要求に応じた柔軟な負荷分散機能が提案当初より求められていました。また、コストに対して意識を高く持っていたため、機能とコストのバランスを重要視したと語ります。対して勝田氏は、仮想的にロードバランシング機能を顧客ごとに切り分けるマルチテナント環境が必須だったと考えました。1台の物理的な筐体で払い出し可能な仮想ADCの数や提供できる機能の豊富さを前提に、コストパフォーマンスのよい製品を探すことになったと振り返ります。そこで有力候補に挙がってきたのが、A10ネットワークスの「Thunder 1030S ADC」でした。「仮想的に複数のパーティションに分割し複数のADCとして稼働させるADP (Application Delivery Partition)機能を持つThunder ADCは、1台の筐体で提供できる仮想的なADCの数は、同じ価格帯の製品の中でも群を抜いています。仮想ADC 1台当たりの性能や機能も考慮したコストパフォーマンスを競合製品と比べると、最大10倍程度の価格差が生まれる製品もありました。実際に複数の製品で性能試験を実施しましたが、最適なパフォーマンスを発揮したのがThunder ADCでした」(柴田氏)。

他にも、すべての機能が追加ライセンスなしで最初から提供されている点も、今後データセンターの標準サービスとして展開していく上では大きなポイントになったと勝田氏。「お客様がどんな使い方を望まれるのが未知数ではありますが、用途が広がるに従ってライセンスを買い足していくのは避けがた。ライセンスの買い足しのリードタイムを考えると、余計な手間をできる限り最小限に抑えたいと考えたのです。Thunder ADCであればその懸念も払拭できます」(勝田氏)。

ソリューション: ロードバランシングサービスの基盤に求められる機能をThunder ADCがフルに提供

このように柔軟な提供形態や豊富な機能、パフォーマンスが高く評価された結果、FANICSで提供されるロードバランシングサービスの基盤にThunder ADCが採用されました。

Thunder ADCに搭載されている独自OS「ACOS®」(Advanced Core Operating System)はハードウェアの性能を最大限に引き出すことができ、コンパクトなハードウェアであっても高いパフォーマンスを実現します。機能面では、一般的なロードバランシング機能を持ち合わせていることはもちろん、スケーラブルなSSLオフロード機能も重視されました。Thunder ADCでは専用のセキュリティプロセッサによる高速処理が可能な点も柴田氏は高く評価しています。

また、WebベースのGUIや業界標準のCLIだけでなく、DPI (Deep Packet Inspection) 技術によってトラフィック管理のルールを詳細に記述できるスク

リプト言語「aFleX®」を利用することで、ネットワーク管理者がトラフィックのブロックやリダイレクト、そしてコンテンツの修正まで様々なアクションを行え個別の要求にも容易に応えることができる点も選定ポイントに挙げています。国内で、別の環境でのThunder ADC構築に成功していたことも、柴田氏の安心材料になっていました。

FANICSの提供するロードバランシングサービスの基盤として、Thunder ADCは負荷分散やセキュリティ、aFleXによるトラフィック管理まで必要な機能をすべて備えています。

導入効果: 使いやすさとコンパクト設計が現場から高評価

現在は、FAPLが顧客向けに提供するFANICSサービスの一部であるロードバランシングサービスの基盤として「Thunder 1030S ADC」が稼働しており、すでに誰にでも利用できる環境が整えられています。基本的にはサーバー負荷分散やSSL処理のオフロードが中心となっていますが、SSLインサイト機能を使って暗号化された通信を復号化し、WAF (Webアプリケーションファイアウォール) など別のシステムに受け渡してトラフィック分析に活用するといった使い方も行われています。

Thunder ADCの評価については、その使い勝手の良さが現場の声として寄せられています。現在FANICSのサービス開発を担当するFAPL 地域ITサービス開発部門 ネットワークサービス開発部 リーダーManoj Buddhika Adikari氏は以下のように語ります。「1Uサイズでコンパクトなのはデータセンターを運営する側として助かっています。業界標準のCLIを使用すると、他のネットワーク機器と同じようなコマンド操作で扱うことができるため、Thunder ADCに初めて触れる現場のネットワークエンジニアも、すんなり理解できました」

サポート面では、さまざまな機能要望や改善の要求に対してレスポンスよく対応するA10ネットワークスのサポート体制を他の外資系ベンダーとは一味違うと柴田氏は高く評価しています。特に日本の顧客専任の日本人技術者が本社に常駐し、現場の要望を研究開発部門へ迅速に伝えることができる体制もサポート品質の良さに繋がっていると分析しています。

今後の展開

今後については、現在データセンター内で稼働しているお客様のADCを、今回Thunder ADCを使って新たに整備したロードバランシングサービスに切り替える提案を行っていく計画です。

「グローバル展開を検討するお客様が我々のデータセンターを利用していたくきっかけになることが多いため、世界中のデータセンターで広域負荷分散 (GSLB) を行いたいというニーズはきっと出てくるはず。Thunder ADCであればGSLBに標準対応しているため、必要になればすぐに実装することも可能です。GSLB機能は非常に重要だと考えています」Adikari氏。

今回のFANICSでの導入をモデルケースとして、データセンター内のクラウド基盤拡張を計画しているお客様にA10のソリューションを提案することも選択肢の1つとして考えられると勝田氏。「ロードバランシングのサービスが必要になれば、A10が有力候補の1つになってくることは間違いない」と勝田氏は力説します。

A10 Networks / A10ネットワークス株式会社について

A10 Networks (NYSE: ATEN) はアプリケーションネットワーク分野におけるリーダーとして、高性能なアプリケーションネットワークソリューション群を提供しています。世界中で数千社にのぼる大企業やサービスプロバイダー、大規模Webプロバイダーといったお客様のデータセンターに導入され、アプリケーションとネットワークを高速化し安全性を確保しています。A10 Networksは2004年に設立されました。米国カリフォルニア州サンノゼに本拠地を置き、世界各国の拠点からお客様をサポートしています。

A10ネットワークス株式会社はA10 Networksの日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワークソリューションをご提供することを使命としています。

詳しくはホームページをご覧ください。

URL: <http://www.a10networks.co.jp/>

Facebook: <http://www.facebook.com/A10networksjapan>

(記載された内容は2015年8月時点の情報です。)

A10ネットワークス株式会社

〒106-0032
東京都港区六本木三丁目2番1号
住友不動産六本木グランドタワー33階
TEL: 03-4520-5700
FAX: 03-4520-5701
jinfo@a10networks.com
www.a10networks.co.jp

Part Number: A10-CS-Fujitsu Asia-01 Jul 2020

海外拠点

北米 (A10 Networks本社)

sales@a10networks.com

ヨーロッパ

emea_sales@a10networks.com

南米

latam_sales@a10networks.com

中国

china_sales@a10networks.com

香港

HongKong@a10networks.com

台湾

taiwan@a10networks.com

韓国

korea@a10networks.com

南アジア

SouthAsia@a10networks.com

オーストラリア/ニュージーランド

anz_sales@a10networks.com

お客様のビジネスを強化するA10のアプリケーションサービスゲートウェイ、Thunderの詳細は、A10ネットワークスのWebサイト www.a10networks.co.jp をご覧ください。A10の営業担当者にご連絡ください。

©2015 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 Networks、A10ロゴ、A10 Lightning、A10 Thunder、aCloud、ACOS、ACOS Policy Engine、ACOS Synergy、Affinity、aFlex、aFlow、aGalaxy、aVCS、AX、aXAPI、IDaccess、IDSentry、IP-to-ID、SoftAX、SSL Insight、Thunder、Thunder TPS、UASG、VirtualN、Virtual ChassisおよびvThunderは米国およびその他の各国におけるA10 Networks, Inc. の商標または登録商標です。その他上記の全ての商品およびサービスの名称はそれら各社の商標です。その他の商標はそれぞれの所有者の資産です。A10 Networksは本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networksは、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がございますので、ご注意ください。